

教育セミナー6

現地開催

座長

比留間 政太郎 先生

比留間医院 副院長/
お茶の水真菌アレルギー研究所 所長

演題
1

抗真菌剤耐性白癬に対する アプローチ

演者

加納 壘 先生 帝京大学医真菌研究センター 教授

演題
2

爪白癬の正しい診断と 薬剤の特性を活かした治療

演者

木村 有太子 先生 順天堂大学医学部 皮膚科学講座

日時

2023年10月7日(土)

11:45▶12:45

学会2日目

場所

第3会場

川越プリンスホテル 3F エメラルドルーム
〒350-8501 埼玉県川越市新富町1-22

第67回日本医真菌学会総会・学術集会 〈教育セミナー6〉

The 67th Annual Meeting of
the Japanese Society for Medical Mycology

演題1

抗真菌剤耐性白癬に対する アプローチ

加納 壘 先生 帝京大学医真菌研究センター 教授



テルビナフィンおよびアゾール系抗真菌剤耐性皮膚糸状菌は世界的に分離されており、治療を困難にさせている原因の一つと考えられている。また単剤耐性菌感染に漫然とした治療を続けると、多剤耐性株に変化することもあるため、非常に危険である。稀ではあるが、患者の抵抗力によっては白癬による足の切断、さらには死亡に至ることもあることを念頭に置いてほしい。そこで、国内海外での耐性菌の現状について解説するとともに、耐性株の感受性試験結果を基にどのように対応したらよいか解説をしたい。治療に対して反応が乏しい場合は、基本的にはまず皮膚糸状菌感染なのか、他の真菌感染なのか鑑別を行うために、患部からの分離同定を行うとともに、抗真菌剤感受性試験またはそれに代替する分子生物学的検査を実施することで、使用したい薬剤の効果を確認する必要がある。そして患部から完全に感染菌の排除を行うことを治療目標にすべきである。

演題2

爪白癬の正しい診断と 薬剤の特性を活かした治療

木村 有太子 先生 順天堂大学医学部 皮膚科学講座



爪白癬治療において一番大切なことは、治療前に正しい診断が行われることである。診断はKOH直接鏡検法で菌要素を確認して診断する。他の方法としては、真菌培養、分子生物学的診断法、また、爪白癬の診断補助としてイムノクロマト法を用いた白癬菌抗原キットも発売された。皮膚科医は日常行っている手技であるが、若手の皮膚科医はKOH直接鏡検法に対して苦手意識のある医師も多く、勉強の機会を望んでいる声も聞かれる。先日、科研製薬主催による第1回頭微鏡ハンズオンセミナーを開催し、若手の皮膚科医向けに検体採取のポイントやプレパラートの作成方法、実際の観察などについて実技のレクチャーを行い、参加者には喜んで頂けた。爪白癬治療において保険適用がある薬剤は、内服薬3剤、外用薬2剤であり、世界的に見ても日本は治療選択肢が多い国となっている。爪白癬は治癒しうる疾患であり、正しい診断のもと、治療薬のそれぞれの特性を活かした適切な治療手段の選択が望まれる。